

# 骨太方針2022における本件関連の抜粋

- ・ 骨太方針2022 7ページ  
(2) 科学技術・イノベーションへの投資  
第三段落

イノベーションの担い手である若い人材に対する支援を強  
力に推進する。博士課程学生の処遇向上を始め、未来ある研  
究者の卵たちにキャリアパス全体として魅力的な展望を与え、  
研究に専念できる支援策を深化させる。(以下略)



# 創発的研究支援事業

令和5年度要求・要望額 16,829百万円  
(前年度予算額 60百万円)



文部科学省

※令和元、2、3年度補正予算等により計688億円の基金を造成

## 事業の概要

自由で挑戦的・融合的な構想に、リスクを恐れず挑戦し続ける**独立前後の多様な研究者**を対象に、**最長10年間の安定した研究資金**と、**研究者が研究に専念できる環境の確保**を一体的に支援する。

応募要件：大学等における**独立した／独立が見込まれる研究者**

- 博士号取得後15年以内（出産・育児等ライフイベント経験者は別途要件緩和）

採択件数：**200件程度**（予定）（令和5年度公募予定の第4期生）

- 令和5年度当初予算において、第4期生の新規公募に係る経費を計上。

【参考】過去の採択件数：**第1期生** 252件、**第2期生** 259件

（第3期生は令和5年1月以降採択予定）

【事業スキーム】

文部科学省

基金造成

科学技術振興機構

研究支援  
環境改善支援

研究者・所属機関

## 特徴

**研究資金と研究環境の一体的な支援**のもと、挑戦的な研究を「**創発の場**」を形成しつつ強力に推進

**(700万円/年(平均)+間接経費) × 7年間(最長10年間) の長期的な研究資金**

- 研究の進捗や研究者の環境等に応じ機動的に運用。
- **バイアウト制度**(研究以外の業務の代行に係る経費を支出可能)のほか、研究代表者の人件費(**PI人件費**)を支出できる仕組みを先行的に導入。
- 研究開始から3年目、7年目にステージゲート審査を設け、研究の進捗等を評価。



### 研究環境改善のための追加的な支援

- 採択研究者の研究時間確保など**環境改善に努めた所属機関**を追加的に支援し、取組を引き出す。
- 研究の進捗等に応じた**柔軟な追加支援**による**研究加速**を検討。



### 「創発の場」の形成

- **PO**によるマネジメントの下、採択研究者同士が互いに**切磋琢磨し相互触発**する場を提供。

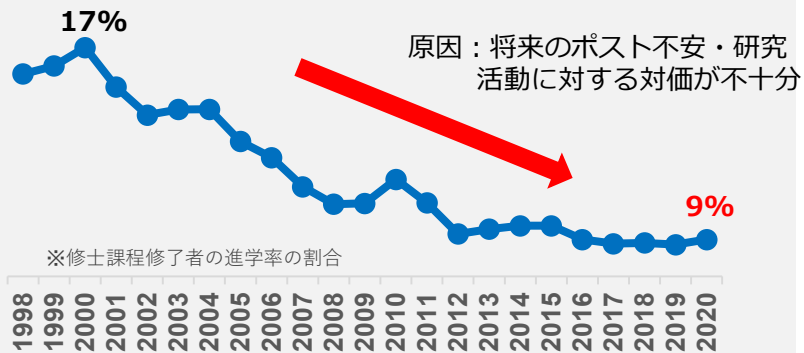


**優れた人材の意欲と研究時間を最大化し、研究に専念 ⇒ 破壊的イノベーションにつながる成果へ**

# やる気と能力のある博士の卵は全員支援

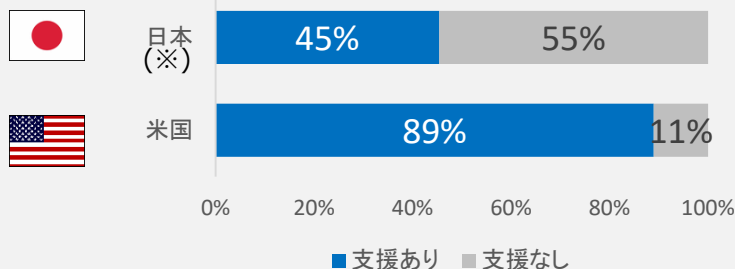
- ・2025年度までに、生活費相当額を受給する**優秀な博士後期課程学生を3倍に増加**（修士課程からの進学者数の約7割に相当）
- ・将来的に、**希望する優秀な博士後期課程学生全て**が生活費相当額を受給。
- ・令和3年度は約200億円、令和4年度は約400億円を支援

## 博士進学率は減少



## 博士学生への経済的支援の日米比較

博士学生への経済的支援の有無



(※令和元年度「博士課程学生の経済的支援状況に係る調査研究」)

## 博士学生への手厚い支援

博士後期課程在学者  
約75,000人  
(令和2年度)

【目標】  
2025年度までに生活費相当額を受給する優秀な博士後期課程学生を3倍に増加  
=約22,500名の学生を支援

目標達成に向けて令和3年度新たに**約7,800人**の博士後期課程学生を支援  
(令和2年度補正予算及び令和3年度当初予算:約200億円)

社会人学生・留学生  
約45,000人

【目標】

社会人学生・留学生

修士課程からの進学者  
**約30,000人**

既に生活費相当額の支援を受給している者  
約7,500人(10.1%)

修士課程からの進学者